

## 実践事例（２）

### 第１・２学年 算数科 ～個人差に対応する指導の工夫～

#### １ はじめに

本学級は、１年生２名、２年生３名の複式学級である。少人数ではあるが、理解力や集中力の個人差は大きく、それに対応した指導が必要である。そこで、以下のような授業の工夫を行った。

- (１) 自力解決を促す指導の工夫
- (２) 個別指導の時間を確保するための展開の工夫
- (３) 個人差に対応する課題の設定

#### ２ 実践例

##### (１) 単元名

第 1 学 年	第 2 学 年
たしざん (2)	かけ算 (1)

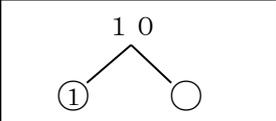
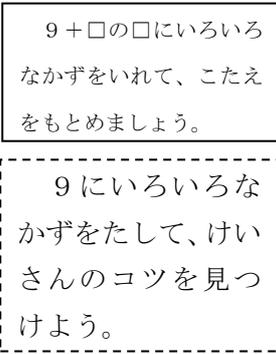
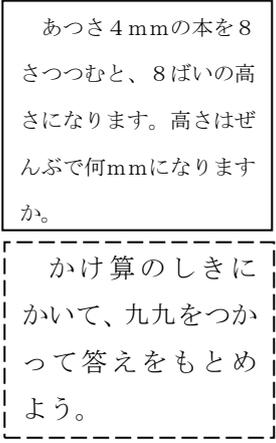
##### (２) 単元目標 (評価規準)

第 1 学 年	第 2 学 年
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ (1位数) + (1位数) で、繰り上がりのある場合の計算の仕方を考え、理解し、計算ができる。</li> <li>○ 繰り上がりのある計算に興味をもち、「10の補数」という考えのよさに気付き、進んで計算しようとする。(関心・意欲・態度)</li> <li>○ 10の補数を意識して、加数を分解してたす計算の仕方を考えている。(数学的な考え方)</li> <li>○ (1位数) + (1位数) の繰り上がりのある計算ができ、適用題を解くことができる。(技能)</li> <li>○ 繰り上がりのある計算の仕方について理解している。(知識・理解)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ かけ算の意味を理解し、5、2、3、4の段のかけ算を構成し、乗法九九を唱えたり、それを適用したりできる。</li> <li>○ かけ算に関心をもち、身の回りからかけ算で表せる数量の場面を進んで見付けようとする。(関心・意欲・態度)</li> <li>○ かける数が1増えると、積はかけられる数だけ増えることを使って、乗法九九を構成している。(数学的な考え方)</li> <li>○ かけ算の式にしたり、乗法九九を唱えたりすることを利用して確実に計算し、適用題を解くことができる。(技能)</li> <li>○ 記号「×」や用語「かけ算」「～倍」の意味や、単位とする大きさのいくつ分かを求めるときにかけ算を用いればよいことを理解している。(知識・理解)</li> </ul>

##### (３) 単元の指導計画

第1学年(全10時間)		第2学年(全18時間)	
時間	学習内容	時間	学習内容
1 4 (本時の3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習事項の復習</li> <li>○ 操作による繰り上がりのあるたし算の仕方の理解</li> <li>○ 繰り上がりのあるたし算の仕方の一般化と定着</li> <li>○ 被加数が6以上のたし算の練習</li> <li>○ 被加数が5以下のたし算の練習と適用題</li> </ul>	4  12 (本時の9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基準量のいくつ分という見方によるかけ算の動機付け</li> <li>○ かけ算の意味と式の読み方、かき方</li> <li>○ かけ算の式と答えの求め方</li> <li>○ 「倍」の意味と「倍」という見方、1倍</li> <li>○ 乗法九九の構成、唱え方と適用題(5、2、3、4の段)</li> <li>○ 基準量が後に示された問題と適用題</li> <li>○ かけ算の問題づくり</li> <li>○ 2、3、4、5の段の乗法九九の練習と適用題</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計算カードの答えによる分類</li> <li>○ 計算カードによるたし算の練習</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本のたしかめ</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本のたしかめ</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 復習</li> </ul>

(4) 本時の指導

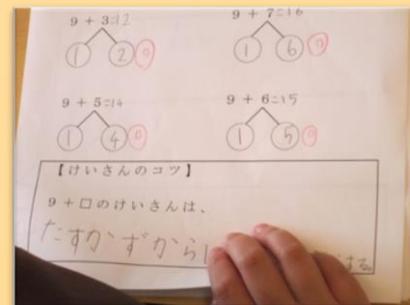
第1学年			第2学年		
(1) ねらい 被加数が6以上(9、8、7、6)のたし算の計算ができる。 (2) 準備物 (教) 計算カード、数カード、ワークシート、挿絵 (児) 数図ブロック、数図ブロック盤 (3) 展開			(1) ねらい 4の段の乗法九九を使って適用題を解くことができる。 (2) 準備物 (教) ワークシート、ホワイトボード、九九表、具体物(本8冊)、挿絵、タイマー (児) 九九カード (3) 展開		
○主な指導 ◎評価	学習活動	わたり	学習活動	○主な指導 ◎評価	
○ 補数を求めるカードを利用して、既習事項を確認する。	1 補数を求める練習をする。 	5	1 乗法九九を練習する。	○ 九九表を見ながら全員で4の段の乗法九九を唱えた後、九九カードを使った「カードとり」をさせる。	
○ $9 + \square$ を板書し、 $\square$ に数カードを置いていき、暗算させる。 ○ 速く正しく計算する方法はないかと投げ掛ける。 ○ 本時の課題を提示する。	2 学習課題をつか 	4	2 練習問題を解く。	○ ワークシートで4の段の計算問題をさせる。 ○ 解答を用意しておき、自分で答え合わせをさせる。 ○ 早く終わった児童には、復習問題をすることを指示しておく。	
○ ワークシートで、 $9 + \square$ の計算をさせる。計算する際には、加数の分け方も書かせて、「1といくつ」の考えを利用すればよいことに気付かせる。 ○ $9 + \square$ の計算の仕方について分かったことを書かせる。 ○ 早く終わった児童には、練習問題をすることを指示しておく。	3 自力解決をする。	7	3 学習課題をつかみ、解決の見通しをもつ。 	○ 問題文から「分かっている数」と「問われていること」を見付けさせる。 ○ 挿絵を示して、何を求めるのかを確認する。理解していない場合は、具体物(8冊の本)を見せて理解を促す。	
		2	4 自力解決をする。	○ ノートに問題文と図と式をかかせて答えを求めさせる。 ○ 自力解決が難しい児童には、ヒントカードを渡す。	
○ 答え合わせをして、計算の仕方について分かったことを発表させる。	4 話し合う。	5	5		

◎ 9 + □ の計算では、10 の補数を利用して加数分解すればよいことが分かる。 【発言・ワークシート】					○ 早くできた児童には、ホワイトボードを使って発表の準備と練習をさせる。
○ 8 + □、7 + □、6 + □ の計算を、10 の補数に着目させて計算させる。 ○ 必要に応じて数図ブロックを操作させる。	5 計算方法を確認する。	7	7	5 自分の考えを発表する。	○ 立式の根拠や答えの求め方を説明させる。 ○ 「基準量の何倍」がかけ算の式で求められることを押さえる。
○ 計算方法を説明させながら答え合わせをして、10 の補数を使って加数分解すればよいことを押さえる。	6 計算の仕方をまとめる。	7	7	6 適用題を解く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">1つのはこに4こずつまんじゅうを入れていきます。9はここでは何こになりますか。</div>	○ ノートに問題文と図と式、答えを書かせる。 ○ 早くできた児童は考え方もノートに書くよう指示しておく。 ◎ 4の段の乗法九九を用いて適用題を解くことができる。 【ノート】
○ ワークシートで、被加数が6以上のたし算の練習問題をさせる。 ○ 解答を用意しておき、自分で答え合わせをさせる。 ○ 早くできた児童には適用問題をさせる。 ◎ 10 の補数を利用した方法で確実に計算ができる。 【ワークシート】	7 練習問題を解く。	5	5	7 練習問題を解く。	○ ワークシートで、4の段の九九を使う練習問題をさせる。 ○ 解答を用意しておき、自分で答え合わせをさせる。 ○ 早くできた児童には、復習問題をさせる。
○ 分かったことや学習の感想を発表させる。	8 本時の学習を振り返る。	3	3	8 本時の学習を振り返る。	○ 分かったことや学習の感想をノートに書かせる。

### 3 考察

#### (1) 自力解決を促す指導の工夫

- 第1学年では、ワークシートを使って指導した。計算の手順を記入させることで、 $9 + \square$ の計算をするためには、 $\square$ を「1といくつ」に分ければよいことに気付かせることができた。
- 第1学年で加数分解に手間取っている児童には、数図ブロックを使って具体的に操作させて考えさせることで、理解を深めさせた。
- 第2学年では、「題意を読み取る指導」を次のように行った。
  - ① 問題文から「分かっている数」と「問われていること」を見付ける。
  - ② 挿絵や具体物を提示して、何を求めるのかを確認する。
    - ・学習活動3では、実際に本を8冊積み上げて、何を求めるのかを押さえた。児童が具体物を操作しながら題意を理解することができ、効果的であった。



自力解決の場面で使った  
ワークシート（1年）

- 「わたり」の時間を次のように設定して、個別指導の時間を確保した。
  - ① 課題把握をした後の自力解決の時間を学年別にずらし、それぞれ始めの数分間を直接指導の時間としている。
  - ② 終末の習熟の時間を2学年同時の直接指導の時間とし、両学年を行き来しながら個別指導を行っている。



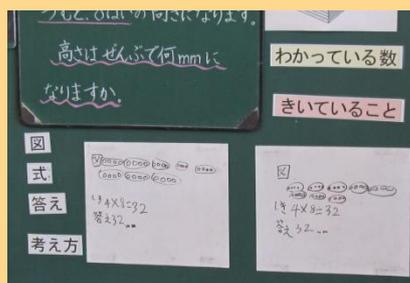
問題文の把握の場面（2年）

#### (3) 個人差に対応する課題の設定

- 課題が早くできた児童には、次の課題を用意している。
  - ① 考え方をノートに書いたり、発表の準備や練習をしたりする。
  - ② 「チャレンジプリント」※1を行う。
- 第2学年では、ホワイトボードを使って2名が自分の考えを発表することができた。残りの1名は、他の児童が発表準備を行っている間に全ての課題を自力解決することができた。
- 両学年とも、「チャレンジプリント」に進む児童がいた。プリントが終わったら「がんばりカード」※2にスタンプを押すことにしているので、児童は、プリントに意欲的に取り組んでいる。

※1 チャレンジプリント…教室に常備している適用題等のプリント（解答あり）

※2 がんばりカード…個別のカード。間違い直しを含めてプリント1枚完了すれば、スタンプを1回押す。スタンプ30回で、シールを貼る。教師が保管。



ホワイトボードを使った  
発表の準備（2年）



カードとりをする場面  
（2年）

### 4 おわりに

今回の授業で行った個人差への対応は、2年生に大変効果的であった。しかし、わたりが細切れになってしまい、話合いや発表を教師主導で慌ただしく進める形となったことが課題である。教師が直接個別指導をする時間には限りがあるので、間接指導時に児童同士で教え合いをさせるというような工夫が必要であったと思う。個人差に対応する指導として、今後、間接指導時の学習形態や学習方法の工夫をし、合わせて読解力や計算力など基礎学力をつけることによって、自力解決や学び合いがより充実するようになっていきたい。